

長渕ひとつ

鎮魂の新曲

紅白で歌う被災地東北から希望を

大みそかの第52回NHK紅白歌合戦に8年ぶりに出場するミュージシャンの長渕剛(55)が、東北日本大震災の被災地となった東北地方から生中継で出演することが決まった。被災地出身者や復興支援を込めて書き下ろした新曲「ひとつ」を歌ったアーティストが名

を連ねる中、被災地からの生中継は、震災のみ。現在、中継所の最終調整が行われていて、長渕は日本大震災の被災地に残る大地に立ち、被災者への祈りや鎮魂の思いを込めて書き下ろした新曲「ひとつ」を披露する。

地から人間が立ち上がり、その精神力を背中で受けながら希望へ向かってい。そして

来年も今年以上に大きな絆を結びたい、が、人間同士が温かい希望に包まれるよになりたいと思っ「ひとつ」と決意を語った。

震災から約1カ月後、長渕は復興支援ラジオ番組を立ち上げ、宮城県石巻市の避難所を訪問。航空自衛隊石巻基地では全国から集まった隊員を激励するためにライブを開催した。その後もさまざまな形で自分なりの支援活動をした。

「怒りが優しさ」
「3才番組の初回で、長渕は自然対する怒りを込めた散文詩を朗読した。だが、同番組で被災者と重なり合っていくうちに、徐々に気持ちが変化していった。そこで生まれたのが「ひとつ」

「この時代」正面から向き合う楽曲。長渕はこの歌を紅白のステージで歌うことを決意した。「悲しみも幸せも、喜びも怒りもすべて包み込んで、がれきの荒野となつてしまった大地を鎮魂の歌を書いたかった。今回も悔しかった。今更には自分が「た」というより、誰かによって書かされたもの、不思議な思い

「非常に意味のある使命を授かった」と思っています。震災によって何もなかったが、大きな



「怒りが内在于いるから、怒りをも解かしてしまふの優しさが大層だと痛切に感じた。その中で優しげに満ちた曲ができた。この東北が今、悲痛な叫びを放つていて、人を助ける力から希望が次々につけられなくなっている。思わぬ形で、

「ひとつ」といって、僕自身の根底にある思いが「ひとつ」といって、そんな熱い思いに対して、NHKのアーティスト、インストラクター・プロデュースの原田秀樹に印象的な、象徴的なシーンになると思います。長渕さんの歌の皆さま、震災での命の皆さまに勇気を届けたいだけ、と期待を書いた。

美しいピアノの旋律で始めると、



がれきが撤去された被災地の荒野にたつた新しい長渕剛の紅白歌合戦では、被災者のさまざまな思いを胸に、生中継で新曲を披露する。

【長渕剛の復興支援活動】
▽24日 FMとAMの垣根を越えた復興支援ラジオ番組「長渕剛 RUN FOR TOMORROW」明日へ向かって」を立ち上げ、16日に宮城県石巻市の避難所などを訪問。自衛隊石巻基地では全国から集まった約1500人の隊員をねぎらうミニライブを開催。
▽6日 NHKの音楽番組「SONGS」の収録で再度石巻市を訪れ、地元の小学生や、東京から駆けつけたゴスペル・クワイヤールとともに復興応援ソング「TRY AGAIN for JAPAN」を歌った。
▽3日 福島第1原発事故の影響で避難生活を送る福島県浪江町の小学生20人を鹿児島県霧島市に招待し、自然と夏を満喫してもらおうと企画した「長渕剛 TRY AGAIN for JAPAN 福島っ子 鹿児島サマーキャンプ in 霧島」を開催。